

## 平成26年度第2回青森県立郷土館協議会について（会議概要）

今年度第2回目の青森県立郷土館協議会が開催されましたので、その内容をお知らせします。

1 日時 平成27年2月6日（金） 午後1時30分～

2 場所 東奥日報社4階会議室

### 3 協議内容

- (1) 平成26事業実施状況及び利用状況
- (2) 平成27年度事業実施計画（案）
- (3) 青森県立郷土館の博物館評価
- (4) その他

### 4 協議内容についての質疑・回答事項

- (1) 平成26年度第1回郷土館協議会後の対応について

#### 【広報・企画関係】

ミニカーをさがせの景品として郷土館のオリジナルグッズをプレゼントしたり、ポスター、ちらし等をコンビニに加えてスーパー等にも配付し集客の拡大を図った。

また、発酵食品パワー展では五所川原農林高校の協力を得て物販を行うなど、学校との連携強化を図った。

無料開館の周知については、今年度の東北文化の日の無料開館について近隣の小学校6校、東奥日報朝刊への折り込み等でちらしを配付した結果、24年度は728名、25年度は631名の入館者に対して、今年度は931名と大幅に増加しており、広報の効果が現れたと感じている。

- (2) 教育普及事業について

出前授業の希望が多く、応えられずキャンセルが多いというのが残念である。郷土館の事業が浸透してきているときに、お断りというのは非常に残念である。時期をずらすなどの工夫ができないか。

(回答)

3学期の授業なので、3学期になってからの申し込みが多い状況であるため、対応としては、春から校長会等に出向き、早い時期に開催してほしい旨依頼してきたが、その結果申し込みが早い時期になっただけで、開催時期は3学期のままであるため、断わらざるを得ない状況である。なかなか現場の先生に届かない状況である。

(補足意見)

小学校の約半数近くが出前授業を利用しているというのはびっくりした。

ただ、教科書の並びで時期が集中するのは避けられないことで、時期をずらして指導をするようにしてほしいというのは、小学校でも中学校でもよっぽどの研究熱心な先生でなければできないんじゃないかと思う。

国立民俗博物館では、「みんぱっく」という資料貸出サービスがある。壊れてもいいような資料のみの貸出をしている。そのような形で小学校への説明付きで、人が行けなくてもいいような貸出ぱっくを作ってはどうか。

(回答)

資料は毎日持ち歩いている。貸し出すとなると、もう1組、2組準備が必要で、貸出したところで、管理する先生の負担が増える。

学芸員が、資料を見せて使い方などを説明しているため、学芸員もついて行く必要がある。

数年来、このことについては議論していて、市町村も巻き込むような形でできないものか検討していきたいと考えている。

### (3) アンケートについて

来館者の1%の回答(アンケート)を元に考えてもなかなか始まらないので、ホームページ上で期間限定で聞き取りをするなど、欲しい情報があれば期間を決めて聞き取りをするというようなことはできないのか。

(回答)

現在構築中のデジタル郷土館が郷土館独自のホームページとなる。アンケートについても、用紙を全員に渡して回答をいただくとか、回答者にプレゼントをあげるなど、もう少し回収率を上げる工夫はしていけると思っている。

(補足意見)

写真展の時に、会場を出るところにアンケート用紙がおいてあり、あのようになると自然に書くことができる。あのようやり方がいいのではないか。

(補足意見に対する回答)

特別展の時にも出口でアンケートを記入していただく形で実施した。

## 5 協議内容に対する意見・感想

- 発酵食品パワー展では、いろいろな展示があったが、昔の物の比重が大きく、今現在のリアルタイムな物と、将来にわたって発酵というものがどういう風に発展していくかにも力点が置かれると、もっと幅が広がったような気がする。展示されていた物は、本当に貴重で、よくこれだけ集めていただいたと思った。
- 郷土館の「ふるさとの過去を語り現在を考え未来を展望する」という設立の目的を意識して、様々な展示において、外注であっても、青森県の昔はこうで、今はこうで、将来はこうだという想定できるようなコーナーがちょっとでもあるといいのかな、という気がする。

- 今年度は発酵食品パワーで、民間の力を利用していった。来年度も導入できる部分はどんどん導入していけばいいと思う。依頼された側も、これはなんとかしてやりたい、と思うし、郷土館の存在も広がっていくと思う。
  
- 提案であるが、郷土館は回想法の場になると常々思っている。福祉と連携することを考えてもいいのではないか。回想法として、お年寄りや若年性認知症の方に来ていただいたり、アウトリーチで出向いて行ったりしても良いのではないかと、思う。  
(→3～4年前からデイサービスに出向いて回想法という事業として取り組んでいる。)
  
- 郷土館の業務のなかに調査研究があるが、それにおいて対応できる人材をきちんとそろえていくような、将来的に臨んでいく体制をつくってほしい。各分野でのトップの研究員の配置まで考えていくともっともっと様々な人に頼れる郷土館になって行くと思う。
  
- 学術的調査に時間が割けるような運営の形をお願いしたい。学生が実習に行くと、職員の皆様があまりにも忙しいので、本当にびっくりして帰って来たので、博物館本来の仕事ができるような郷土館でいてほしい。